

診療報酬引き上げ要求に対する 参院選挙候補者の回答

保険医協会は、7つの重点要求に対して、参院選挙大阪選挙区の国政政党の候補者にアンケートを実施しました。最重要課題とした「初・再診料を中心とした技術料の引き上げ、診療報酬の総枠を引き上げること」の回答（抜粋）は以下の通りです。

保険医協会は、早急に地域医療を守る手立てをとり、社会保障の公的役割を縮小することの撤回を求めて取り組んでいます。



全文は協会 HP に掲載

● 初・再診料を中心とした技術料の引き上げ、診療報酬の総枠を引き上げること

自由民主党 柳本 顕	【その他】給付と負担については不断の見直しを行い、全ての世代が安心でき、能力に応じて支える、持続可能な全世代型社会保障を構築するため、的確な対応を行います
立憲民主党 橋口 玲	【賛成】
日本維新の会 岡崎 太	【その他】内容による
日本維新の会 佐々木 理江	【反対】自己負担額を増やし、結果として保険料の値上げにつながり、現役世代の負担を考えるととても容認できない
公明党 杉 久武	回答なし
国民民主党 渡邊 莉央	【その他】現役世代・次世代の負担軽減が必要の立場です。診療報酬にメリハリをつけ、地域医療の安定強化と医師の偏在解消を図る考え方をとっています
日本共産党 清水 忠史	【賛成】診療報酬が低く抑えられ、医療崩壊の危機にある。国費5000億円を緊急投入し診療報酬を上げ、患者負担増なしで医療従事者の賃上げを図るよう求めています
れいわ新選組 樫田 健吾	【賛成】患者負担の軽減とセットで行うべき
参政党 宮出 千慧	【反対】手取りが増えない状況で診療報酬は減らす方向で考えるべきです。病床過剰のため病院減少（病床削減）が適切と考えます